

OTOGAWA

愛知県岡崎市の乙川リバーフロント地区では、2015年から主要回遊動線「QURUWA(くるわ)」を中心に、豊富な公共空間を活用した複数の社会実験を通して、公民連携プロジェクトを立ち上げ、「QURUWA戦略」としてエリアの再生に取り組んでいます。

QURUWA 

自分たちの
まちが
でんのまど

GRAND DESIGN

公から民への
シフトチハ・ンビ
乙川リバーフロント地区の
公民連携まちづくり
6年目の取り組みを収録。

CONTENTS

PROJECT SUMMARY

2019年度QURUWA情報発信

QURUWA PROJECT-1

「アーバンモンストラム施設整備事業等」の事業一時凍結の申し入れ

QURUWA PROJECT-2

ねとがわむより

COMMUNITY

→会連和

RELATED PROJECT

2019年度QURUWA情報発信

QURUWA PROJECT-4

かねまわいく、おとがわーングダーランド

岡崎泰平の折り

QURUWA PROJECT-6

つぶら

SYMPOSIUM

QURUWA新章第2幕

SOCIAL EXPERIMENT

#QURUWA じ暮らす

RELATED PROJECT

かねまわいく、おとがわーングダーランド

CONFERENCE

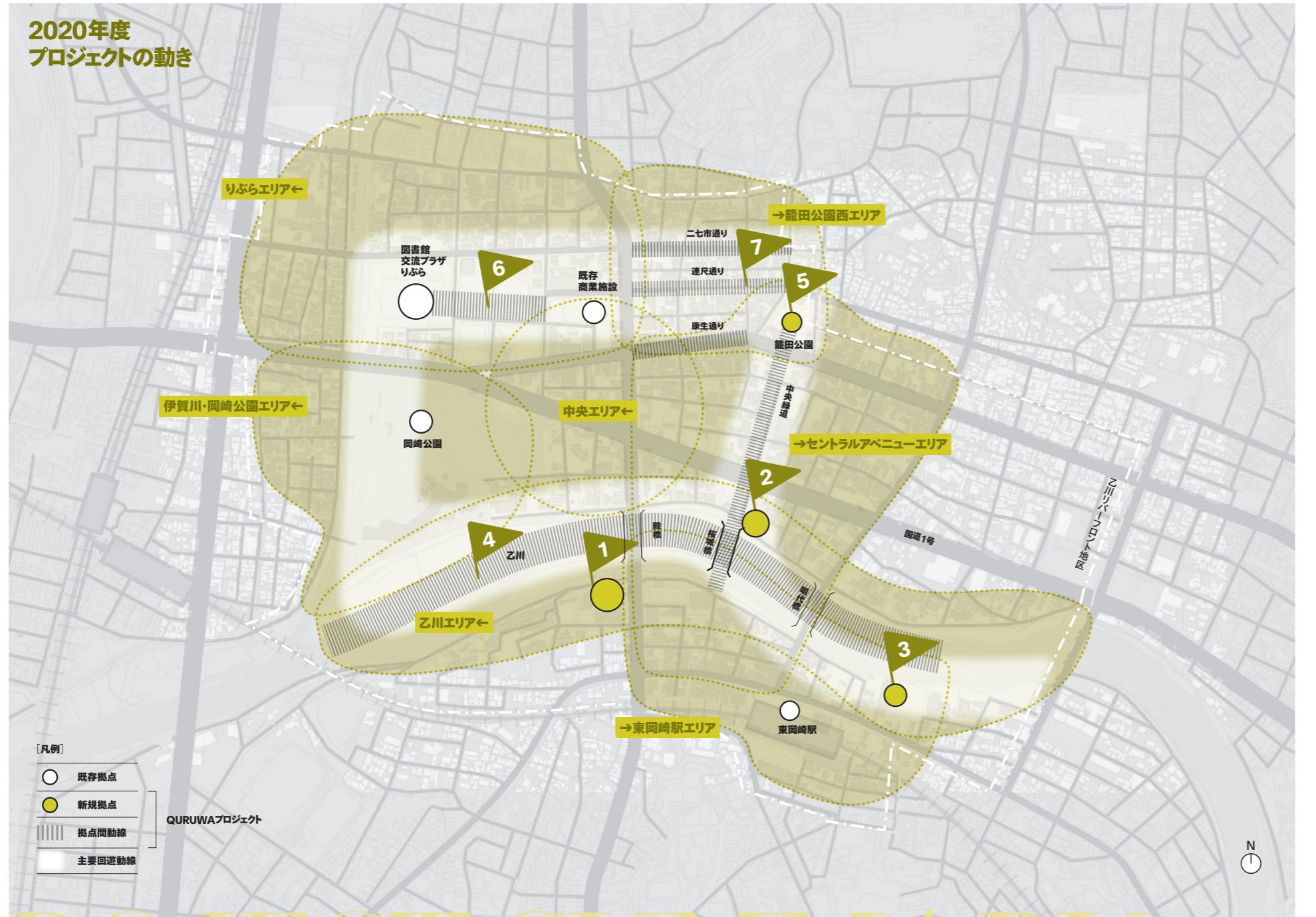
2020年度デザイン会議

Vol.8

プロジェクトサマリー 2020年度 QURUWAの まちづくり

2015年からはじまる乙川リバーフロント地区のまちづくり6年目となる2020年度は、そのスタートとなる4月頃から国内でも新型コロナウィルスの感染症が拡大し、企画されていたイベント等が中止を余儀なくされるケースが多くありました。また、10月18日に実施された市長選においては、3期目を目指した内田康宏氏をおさえて中根康浩氏があらたに市長に当選し、市政運営にとって大きな節目を迎える年もありました。

ここからは、2020年度におけるQURUWA戦略に定められた7つのQURUWAプロジェクトの主な活動または取り組みをお届けします。



- 1 QURUWAプロジェクト1 ホテル・コンベンションの整備・運営
- 2 QURUWAプロジェクト2 桜城橋橋上広場・橋詰広場の整備・運営
- 3 QURUWAプロジェクト3 東岡崎駅周辺の整備・運営
- 4 QURUWAプロジェクト4 乙川のかわまちづくり
- 5 QURUWAプロジェクト5 龍田公園・中央緑道の整備・運営
- 6 QURUWAプロジェクト6 りぶら暫定駐車場の活用
- 7 QURUWAプロジェクト7 道路空間の運営(康生・連尺・二七市)

QURUWAプロジェクト-1 「コンベンション 施設整備事業等」 の事業一時凍結 の申し入れ

プロジェクトの構成

プロジェクト名「岡崎市QURUWAプロジェクト（コンベンション施設整備事業等）」（以下、「本プロジェクト」という。）

- ① コンベンション施設の整備を行う
「岡崎市コンベンション施設整備事業」
- ② ホテル等事業を行う
「ホテル等民間収益施設事業」
- ③ 乙川河川緑地の利活用等を行う
「乙川河川緑地管理運営事業」

本プロジェクトの実施にあたっては、本プロジェクトの基本コンセプトである「まち・ひと・かわを結ぶ交流拠点」を実現するために民間資金・経営能力・技術的能力の活用を図る公民連携事業として、効果的・効率的に推進することを目指しています。

本プロジェクトは、2020年2月19日に実施された事業者選定審査委員会の審査を踏まえて、2月26日、酒部建設グループが優先交渉権者として選定されました。そして4月20日に岡崎市QURUWAプロジェクト（コンベンション施設整備事業等）基本協定（以下「基本協定」という）の締結がおこなわれました。

優先交渉権者

酒部建設グループ（代表企業、構成企業のみ掲載）

- ・酒部建設株式会社
- ・三菱地所株式会社
- ・株式会社スノーピーク
- ・ビジネスソリューションズ
- ・ホームエックス株式会社 岡崎支店

酒部建設グループの提案は、コンベンションホールやハイエンドを2階に配置することで乙川への眺望に配慮した点や、本市初となる宿坊型ホテル誘致のほか、建物と河川空間の間に位置する堤防道路を歩行者専用道路化

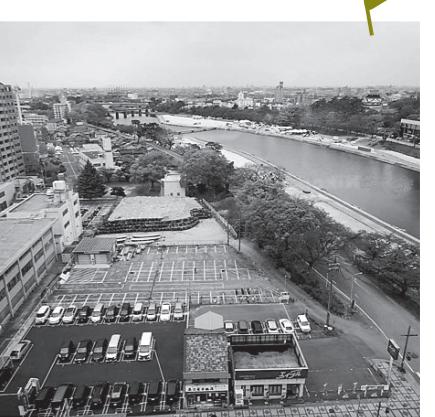
することで河川空間との一体化を図る斬新なアイデアなど、QURUWAエリア全体への波及効果を意識した優れた内容であったことから、公民連携で進めるまちづくりのパートナーとして、最もふさわしい提案であると評価されました。

中止するための協議

市の政策変更により2020年12月21日、岡崎市コンベンション施設整備事業並びにホテル等民間収益施設事業を中止するため、基本協定に関する本事業関連契約の一部（①「岡崎市コンベンション施設整備事業」及び②「ホテル等民間収益施設事業」に対する範囲）について、今後、契約締結に関する事務をおこなわないこととするための協議を、事業者に対して申し入れました。構成プロジェクトのうち③「乙川河川緑地管理運営事業」は2021年4月1日から、指定管理者に指定されたホームエックス・スノーピークビジネスソリューションズ共同企業体により、乙川河川緑地（殿橋下流左岸）の管理・運営がおこなわれています。

事業中止協議を中断し、 事業を一時凍結するための協議

2021年3月4日、①「岡崎市コンベンション施設整備事業」について、再度、多くの市民等の意見を聞いたうえで、2021年12月末までを目途に事業計画の見直しを含め事業の方向性を決定するため2020年12月21日におこなった事業中止協議を中断のうえ、事業を一時凍結することを、事業者に対して申し入れました。



現在の太陽の城跡地

QURUWAプロジェクト-2

おとがわ びより

P-PFI事業は引き続き、コロナ禍の影響を受け、事業着手が未定となる中で、桜城橋に親しんでもらう、来てもらうという取り組みを実施しました。

日時:
2020年9月19日[土] 8:00~21:00
2020年9月20日[日] 8:00~17:00
会場:桜城橋(乙川河川緑地)周辺

2020年3月22日、桜城橋の供用開始後、コロナ禍でイベント等の開催が難しい中、初

めて市が主催したイベント「おとがわびより」が9月19日、20日と開催され、おとがわ!インダーランドと株式会社スノーピークビジネスソリューションズの協力で乙川河川緑地にキャンプテントなどが広がりました。キャンプギアは桜城橋との風景と非常にマッチし、今後の岡崎の目指す高質な公共空間の一端を感じられ、来場者にとっても普段と違う景観はプラスのイメージになったようでSNSなどでも投稿されました。

橋上に設置された自由に使えるテント(タープ)、テーブル、椅子ではキッチンカーなどで購入したランチやドリンクを楽しむ多くの来場者が確認され、キッチンカーの利用促進効果がありました。今後、橋上には、日常的にテーブルと椅子が設置されているだけでも良い効果



桜城橋橋上広場からの視点:乙川でSUP体験をする様子

が期待できるかもしれません。そして、桜城橋を活用するうえでは、乙川河川緑地の活動と連携する必要性を感じています。

一方で、テントやタープを桜城橋橋上広場および乙川河川緑地に設置した際、テントを固定するためのロープに来場者がつまづくなど、来場者の安全確保が必要となり、対策として黄色いカラーコーンを設置しましたが、安全確保を優先しすぎると、カラーコーンの色によっては目立ちすぎるため、「白・黒・ベージュ」など橋の雰囲気に合わせたものにするか、もしもロープに飾り付けをおこない、夜間はサイリウムで光らせ、目立たせるなどの工夫が必要です。

課題としては、コロナ禍が落ち着いた時期には、当日受付でも体験できるアクティビティがもう少しあると参加者が見込めるかもしれません。

飲食などの出店の面では、納入されたばかりのキッチンカーでの販売や、イベント出店自体が初めての出店者もあり、滞留列が長くなってしまいました。出店数を増やす場合は、滞留列のさばき方について事前に検討・準備が必要であると実感しました。(今回はコロナ対策のため、待つ場所を足跡マークのPOPで表示することでスムーズに並べることができました)。

今回、ゴミ箱の設置はおこなわず原則持ち帰りをお願いしたところ、多くの来場者にご理解いただき、ゴミのポイ捨てはほとんどなく非常にキレイに桜城橋などの公共空間を利用していただけました。会場の雰囲気もあると思いますが、今後も同様のイベントでは、ゴミ箱を設置しなくても良いと思われます。暗くなると、桜城橋橋上広場の灯りが乏しく、橋自体の灯りとテントやタープ内の灯りだけでは、少し物足りないため、足元を照らして安全を確保することも検討したいと考えています。



桜城橋橋上広場の様子



桜城橋橋上広場と乙川河川緑地

地域住民が中心となった コミュニティ活動支援組織

7町連合

籠田公園周辺の町内会が協働して「籠田公園周辺7町・広域連合会(以下、7町連合)」を立ち上げ、各種コミュニティ活動を展開しています。

7町連合が生まれるきっかけは籠田公園と中央緑道の再整備でした。「中央緑道検討会議(2016年)」や「新しい籠田公園と関わるワークショップ(2018年)」には、公園と緑道に隣接する町内(合計7町内会)の方々に参加が呼びかけられました。これまで地域自治活動への関わりが薄かった住民の意見にも耳を傾け、まちの課題を明らかにするため、籠田公園周辺3町(籠田、亀井、伝馬1地区)の中学生以上の全住民に対して地域主体の「全住民アンケート調査」を実施しました。

ワークショップに参加された地域役員の方から「籠田公園が新しくなるのであれば、30年ぶりに町や学区の垣根を超えた盆踊りをやりたい」という思いが語られ、これに賛同する籠田公園周辺の3町内が動き出し、さらに中央緑



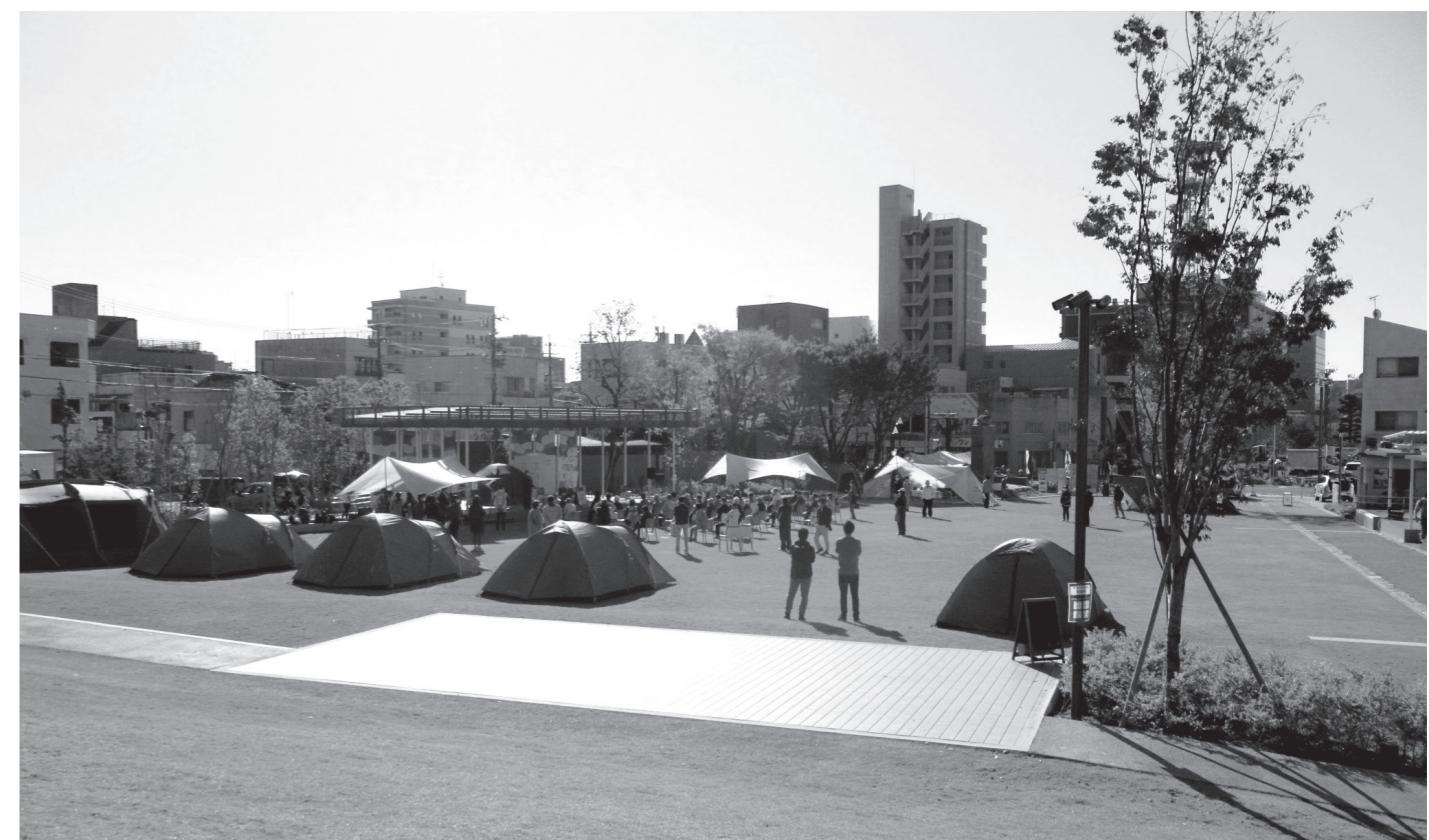
KCBM(籠田公園・中央緑道・桜城橋運営会議)の様子

道に隣接する町内会にも共感の輪が広がったことで、2019年夏には7つの町内会が協働して盆踊りを復活させました。

このつながりが更に輪を広げ、今や学区の枠を超えた20程度の町内会がつながる広域連合へと発展しています。

7町連合の誕生により、①1つの町内会では

できない大がかりな取り組みができるようになった、②市民活動団体や企業および行政など外部組織の巻き込みがおこないやすくなった、③住民の中から「こんなことがやりたい!(自治会マルシェなど)」というチャレンジすることや、新たなコミュニティづくりをする等の機運が生まれた、といった変化が生まれています。



防災キャンプ

籠田公園周辺地区をめぐる3年の取り組み

2018年

新しい籠田公園に関わるワークショップの開催

籠田公園周辺の町内会役員や公園の美化活動に参加しているボランティア、近隣の商店街関係者等にお声掛けをしてワークショップを開催。公園活用事例に関する勉強会(東京・南池袋公園や岡崎・春咲3公園の事例)を開催した他、前年に籠田町・亀井町・伝馬1丁目にて実施した「全住民アンケート」の結果分析について外部アドバイザー(宮崎氏/カントリーラボ)からのアドバイスも受けました。公園活用のイメージを高め、活動を立ち上げる1年でした。

2019年

岡崎市公園協議会籠田公園分科会準備会の開催

籠田公園は、近隣住民にとどまらず、地域外からイベントが持ち込まれ、キッチンカーによる営業行為が実施されるなど、従来にない公園活用が想定されています。そこで、地域住民や事業者、行政が公園のあり方やルールを話し合う「岡崎市公園協議会籠田公園分科会」が必要となったため、その枠組みを計画するワークショップを開催。特に「公園でおこなわれるイベント等の情報を事前に地域に共有してほしい」というニーズが顕在化し、この情報収集と発信を7町連合が担うことになりました。

2020年

籠田公園周辺3町内検討会議の開催

籠田公園の活用が軌道に乗ってきた一方で、過去に実施した「全住民アンケート」で取り上げられた地域課題の解決が十分に進んでいない状況を踏まえ、地域役員からの発意で「籠田公園周辺3町役員検討会」が発足。課題解決に向けた活動の計画づくりが始まりました。地域課題(防犯、防災、福祉など)の解決の推進主体として7町連合への期待がより高まっています。

[参考]『まちのミカタ Litaracy』2021.03 vol.108
発行・編集:岡崎まち育てセンター・りた

籠田公園周辺の コミュニティ活動 (2020年時点)

【交流】

・夏祭り(盆踊り):8月(年1回)開催

・籠多市場:(年4回)開催予定

キッチンカーの出店、周辺路面店巡回、ステージイベント、自治会マルシェ、農遊会・野菜朝市等を予定しています。
・ミュージックフェス:4月・10月(年2回)
音楽イベント、キッチンカーの出店等。

【健康づくり】

・ラジオ体操:毎日

・岡崎ごまんぞく体操:毎週

【防犯・防災】

・防災キャンプ:11月(年1回)開催

【美化活動】

・清掃活動:第2・第4土曜日実施



岡崎ごまんぞく体操

QURUWA PROJECT

OTOGAWA GRAND DESIGN Log

06

Vol.8

関連プロジェクト

2020年度 QURUWA 情報発信

自分と主要回遊動線「QURUWA」の接点が見つけられるよう、いわば「情報インフラ」を整備する意識で「おしさせプロジェクト」を今年度から進めました。また、プロジェクトを1年ごとに振り返りできるように継続発行している、本誌『Log』もそのひとつです。

QURUWAウェブ(暫定版)

地図、事業概要、年表、おしさせ

QURUWAおしさせプロジェクト

QURUWAの中で活動する人たちが自由にお知らせできる仕組みをつくりました。Facebookグループ「おしさせプロジェクト」に投稿されたお知らせのいくつかは、QURUWAの中の東岡崎駅、りぶらなどに設置された「QURUWAボード」と「QURUWAウェブ(暫定版)」にも掲載されています。



QURUWAボード | 月2回更新



屋外用

OTOGAWA GRAND DESIGN Log

07

Vol.8

QURUWAプロジェクト-4 かわまちづくり おとがワ! ンダーランド

2016年から5年間にわたって実施してきた、乙川の水辺空間活用の実験的プロジェクト「おとがワ!ンダーランド」は、2021年4月からの乙川河川緑地の指定管理者に選定された事業者がかわまちづくり実行委員会の運営を引き継ぐこととなり、管理体制が変更されたことに伴い、2021年3月をもって終了しました。「使ってみたい」市民や事業者の方々を募り、乙川に新たな風景を生み出すとともに、エリアの魅力向上を目指しました。4月からはリバーライフ推進委員会が進める「乙川リバーライフプロジェクト」が実施されています。

乙川リバーライフプロジェクト：
otogawariverlife.com

おとがワ!ンダーランド2020は、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を受け、難しい運

営を強いられましたが、密をつくりづらい屋外空間の活用が見直され、結果的に5年目にして一番多くの方にご来場いただくことができました。

公募事業

おとがワ!ンダーランド2020

期間：2020年5月2日～2021年3月31日(333日)
団体数：24団体(新規団体：3)
日数：151日(内10日間は中止)
実施プログラム数：42

おとがワ!ンダーランド

AUTUMN EVENT「川ぐらし」

日時：2020年10月25日[土] 10:00～16:00
来場者：約5,000人
実施プログラム数：13

おとがワ!ンダーランド

Let it Camp

期間：2020年5月16日[土]～2021年1月31日[日]
(期間中の週末に実施)

1stシーズン | 5月16日～7月26日(うち5日間)
2ndシーズン | 9月19日～1月31日(うち14日間)

来場者：965人(301組)

1stシーズン | 215人(64組)
2ndシーズン | 750人(237組)

おとがわリバーカーニバル

日時：2020年12月12日[土] 9:00～12:00
来場者：138人



Let it Camp



スポーツバイク試乗会



おとがワ!ヨガ



乙川SUP体験



マンスリーチラン



ジュニアランニングスクール



川ぐらし



QURUWAプロジェクト-4 岡崎泰平の祈り

主催：岡崎 泰平の祈り実行委員会

菱の軌跡照射

日時：2020年11月21日[土]～28日[土]
18:00～21:00
照射場所：りぶら近隣駐車場／
籠田公園近隣駐車場／乙川リバーベース

乙川ナイトマーケット

日時：2020年11月28日[土] 16:00～21:00
来場者：5,000名
出店数：100店舗

市内学生作品展示

開催時間：18:00～21:00



図書館リサイクル本バザー

日時：2020年7月24・25日、
9月15日から毎月第3火曜日
場所：籠田公園

岡崎まちかどジャズライブ

日時：2020年9月26日
場所：籠田公園、桜城橋



QURUWAプロジェクト-5

中央緑道 再整備

桜城橋と籠田公園を結ぶ中央緑道は、東岡崎駅を始めとした、乙川リバーフロント地区の公共空間を結ぶ主要回遊動線「QURUWA」の一部として、市道籠田町線と都市公園中央緑道(以下、「中央緑道等」という)を一体的に改修し、歩行者が安心して歩き、同時にくつろげる空間を整備しました。2018年から、地元町内会主催により、籠田公園と中央緑道の再整備方針や管理活用を語り合う場が開かれ、よりよい空間整備のため、協議が重ねられました。



中央緑道北端



河岸段丘を活かした大階段テラス



中央緑道北端から南に向けて撮影した様子

全体の幅員構成

全幅30m
中央緑道:16~17m
市道籠田町線(片側)
歩行者空間:2m(車止めを含む)
自転車通行空間:1m
車線+路肩:3.5m~4.5m
*歩車共存道路等

整備コンセプト

「道であり、広場でもある」という「みちひろば」空間の形成をコンセプトとし、楽しく安全に歩ける動線であり、ひと休みできる環境を兼ね備えた空間を目指しました。このコンセプトを実現するために、中央緑道両側の市道籠田町線を歩行者を重視した歩車共存道路等として再整備することで、車が通行する幅員を抑え、中央緑道の幅員は最大約1.7倍に拡幅しました。この拡幅空間により景

観、防災、安全面で効果の高い無電柱化を実現するとともに、多用途に使える空地を全体的に配置し、電源、水栓も併せて整備しました。

生活道路における通過交通の排除など、快適な生活環境の創造をもたらすことを目的とし、自動車の速度を抑制する措置を講じ、交通事故を防止し、歩行者にとって安全かつ安心な通行空間とした道路のことです。市道籠田町線では、自動車の速度抑制のため車道に屈曲部と狭窄部を配置するとともに、自転車通行空間を設置(路面標示はQURUWAオリジナルカラー及びデザインを採用)して歩行者との分離誘導を図っています。

社会実験

#QURUWAと 暮らす

日時:2021年3月20日[祝](21日[日]は雨天中止)

場所:
① 乙川河川緑地
② 桜城橋
③ 中央緑道
④ 篠田公園
⑤ 連尺通り
⑥ 康生通り
+ 周辺店舗

趣旨:

- ・「新しい日常」のヒントを岡崎のまちから見つける。
 - ・歩いて過ごして暮らして楽しいまち・心地よいまちの実現に向けて、
 - 1 | 歩いて楽しい(回遊性の促進)
 - 2 | 過ごして楽しい(滞留性の向上)
 - 3 | きれいな街並み(景観形成)
 - 4 | 安心・安全な通り(歩行者空間化)
- を市民に体験してもらうこと。

乙川河川緑地

①

[実施内容]

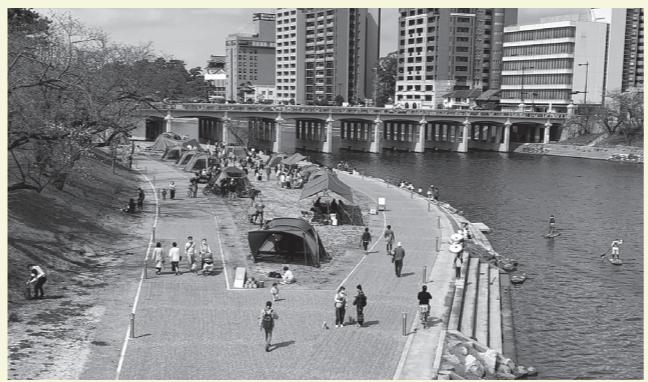
「#QURUWAと暮らす@おとがワ!ンダーランド」という企画で、乙川河川緑地で定期的に開催されているプログラムを実施しました。エリア全体にスノーピーク製のギアを設置し、統一感を意識。QURUWAの中でも広大なアウトドアフィールドを活かして、体験型プログラムを多く実施しました。(SUP体験、観光船運航、自転車試乗体験)

[成果]

通常は、殿橋下流左岸がメインフィールドですが、今回、桜城橋下流の左岸で開催したことにより、桜城橋橋上広場との距離が近くなり回遊促進のきっかけとなりました。桜城橋橋上広場の中央にコンテンツが配置されたことで、東西のスペースが開かれ、乙川河川緑地の取り組みへ意識を向けるきっかけになりました。レイアウトに意図的に余白をつくることで、人の滞留を促すことができました。

[課題]

イベントではなく日常的な回遊をどのように生み出し、定着させていくか。拠点間での日常的な回遊を定着させるために、定期プログラムや情報発信等での連携、公共空間活用の啓発、移動手段のサポートが求められます。



桜城橋

②

[実施内容]

EATBEAT! PICNIC in OKAZAKIを開催 モニターを事前に募集し、モニターにQURUWAを歩いてもらうことにより、ハード整備が一旦の完了を迎えたQURUWA内の公共空間での過ごし方等の状況を確認しました。

[課題]

当初検討していた橋上における自転車通行実験が実施できなかったため、今後実施していく必要があります。橋と中央緑道との関係において、トイレや通行者動線の課題を抱えているため、トイレの早期整備、通行の安全化を検討していく必要があります。

[連動性]

乙川河川緑地との関係においては、桜城橋橋上広場の活用が北側をメインとしており、企画内容などで連動ができなかったため、回遊という観点では、次への課題が残りました。対中央緑道という観点では、橋でのコンテンツに応じた中央緑道南端の使い方や情報発信により沿道の利用も増え、相互に利用される可能性を感じました。



中央緑道

③

【実施内容】

国道1号から南のブロックでは、キッチンカー1台とスノーピークギア設置及び結婚式場の出店(沿道活用)、中央のブロックではスノーピークビジネスソリューションズによるディキャンプ体験、籠田公園と隣接するブロックではキッチンカー1台と沿道連携を実施しました。

【課題】

アンケートにおいて、「国道1号と中央緑道の交差点について、信号を待たずに通れる歩道橋があるとよい」や「信号待ちの時間が長い」などの回答があり、国道1号から南のブロックとその他のブロックの分断性が指摘されており、回遊を促進させるためには改善することが求められています。また、歩くのが苦になった箇所として中央緑道は階段が多いことや子連れだと行きにくいという声が寄せられています。今後、活用の面で、中央緑道の階段などがプラスになるような使い方や発信の仕方を検討する必要があります。

【連動性】

沿道との関係においては、沿道事業者に出店していただいたことなどもあり、うまく連動していくればより豊かな公共空間となる可能性を感じました。籠田公園との連携の観点では、籠田公園にないコンテンツを入れることや、そこに至るまでの統一感をもたらすことで回遊性を向上させることに十分寄与するものと考えられます。



籠田公園

④

【実施内容】

「連と籠」という企画で、連尺通りと連携したフリーマーケット及び南側には同じ車両によるキッチンカーを出店しました。

【評価】

アンケートにおいて、サインの有効性やトイレの開放性が高く利用しやすい点、可動式の机と椅子がある点が高く評価されており、これを水平展開していく可能性を感じています。

【連動性】

康生通りとの関係においては、企画内容で詳細に連動できなかったため、回遊という観点では積極的なものは生まれませんでした。連尺通りという観点では、籠田公園の北西部分と連尺通りを一体的に設えたことにより、休憩できる場所、飲食できる場所、体を動かす場所など総合的に良い場所になりうる可能性を感じています。



連尺通り

⑤

【実施内容】

連尺生活社会実験

2019年

1ブロック(3丁目)の歩道活用

2020年

3ブロック(1,2,3丁目)の歩道活用

*沿道住民や沿道店舗が管理活用する体制構築
*車道と歩道を可変させる将来ビジョン策定

2021年

1:公園と1ブロック歩行者天国化した通りの

一体イベントによる連続性の検証

2:通りの定期的歩行者空間化の検証

3:生活者と交通影響の課題と相乗効果の検証

実施主体:三河家守舎(都市再生推進法人)

企画/運営:連尺通発展会、連と籠の市実行委員会

【評価と課題】

- 1ブロック歩行者天国化したことによる、周辺道路の交通状況について、自動車交通量の観測結果から、通常時と比較して、康生通では+25%、八幡通では+88%の交通量があり、周辺に影響があることが分かりました。

→二七市との同時開催は車両の迂回路確保に支障が出る可能性があります。

- 篠田公園北側交差点において

1:信号待ちによる滞留場所の混雑や横断歩道での歩行者同士の錯綜が発生

2:南進左折車両が横断者を待つ関係で、捌け残りが発生

→公園との連携を深めるためには、両拠点間の安全かつスマーズな往来のあり方について、交通規制方法の検討(運用時は信号による制御など)が必要です。

- 地域運営を継続するために、交通規制に伴うバリケードや誘導員など安全確保や周知の方法についての持続的な運用方法の検討が必要です。



康生通り

⑥

【実施内容】

「軒先マーケット」

軒先活用:11店舗 / 康生ポーチ:2箇所
実施主体:株式会社まちづくり岡崎
協力:グットくわ康生実行委員会

【評価】

- 篠田公園の「イベント」と、康生通りの「日常の取り組み」を連結することで、来店や消費の可能性が認められました。

○社会実験の内容

ベンチ2カ所設置/軒先活用店舗13店舗/空地活用

○エリアの特性

大きな拠点の間にある商業集積エリア

○実験の狙い

イベントと日常利用を結びつける試み

「軒先活用」:商いの可視化

「景観統一・ベンチ」:通りの機能向上と景観の装飾

○結果

回遊が見られた/足を止めて興味を持った/来店消費があった

- 取り組みの質を上げ、その情報を集客拠点に届けることで、一過性にならないエリア内の回遊促進が必要です。

【課題】

- 軒先の使い方の質を上げ、魅力の向上を図る

→休憩所・物販スペースの貸出し・店頭販売などを実施。ただし、道路空間を使うということにさらに工夫の余地があるため、他地域の例なども調べて活用の可能性を広げる必要があります。

- 周辺の拠点と連携した、通りの活動の周知

→イベントだけでなく、周辺拠点の利用者は近くまで来ているので、周囲の拠点と連携を図り利用者に情報を届けることで、日常的に人の流入の促進を目指します。



シンポジウム QURUWA 新章第2幕 公から民への シフトチェンジ

毎年度恒例の乙川リバーフロント地区まちづくりのシンポジウムを、新型コロナウィルス感染拡大を受けてオンラインで開催しました。公民連携で進めるまちづくりの舞台も整い民間ならではの視点、アイデアで魅力的な暮らしを描きはじめ「新章突入」と題した昨年度から、より「民」へとシフトチェンジが見えた今年度の動きをおさらいし、今後の可能性を考える機会となりました。

日時：2021年2月21日(日)14:00-16:00

場所：オンライン開催

(配信会場：Camping Office osoto Okazaki)

参加者：

申込者数429名

ライブ視聴数167

YouTube再生回数1,383回(3月16日時点)

パネリスト

藤村龍至 | Ryuji Fujimura

コーディネーター/建築家/
東京藝術大学美術学部建築科准教授/RFA主宰

清水義次 | Yoshitsugu Shimizu

建築・都市・地域再生プロデューサー/
アフターンソサエティ代表/3331アーツ千代田代表

西村浩 | Hiroshi Nishimura

建築家・クリエイティブディレクター/
株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役/
オン・ザ・ループ株式会社代表取締役/
株式会社リノベリングパートナー

藤村 | 岡崎市内の市街地整備の歴史を振り返りますと、中心市街地の戦災復興時、1945年-50年代にかけて最初の面整備がされて、その後、松坂屋の中心部への進出など民間の投資が進みました。その後、南部の区画整理など公共投資の重心が移り、さらにその後はジャスコや西武が進出するなど民間投資の重点も移行しました。

やはり投資の場所が移っていくと、どうしても中心市街地が空洞化してしまう。

そこで、中心市街地における2巡目の公共投資をしようというのがQURUWAプロジェクトの趣旨でした[図1]。

これは、建築で言うと大規模改修みたいなもの。まちもインフラにも手を入れて中間で再投資をすると長く使えるようになると言えます。

QURUWAの再整備は、2015年からはじまり、当時、国から約100億の補助をうけており、非常に注目をされていました[図1]。

この公共投資に対しては、進捗に伴い議論が進み、ハード整備だけでなく、そこに民間主体のエリアマネジメント組織を意識した「沿道経営体」という言葉が出てきて、公民連携でこの主要回遊動線とその沿道という一つの線をつくり、そこから面へと投資を拡大させていくこうという方針が定められました。

この6年間の歴史を振り返っていくと、最初はハードの整備から始まって、ビジョンを策定する期間があり、まず公共のプロジェクトの発注があり、その間に民間の小さなプロジェクトの取り組みがあって、公民連携プロジェクトが立ち上がって、新しい日常へという形へ段階的に進んできました。

これは、事後的に振り返ると非常にきれいに進んでいるように見えるんですけども、いろんなまちにお伺いして思うのは、こうして段階的に投資がなされている例というのは極めて珍しいのではないかということです。

ポイントとしては、こういう都市整備系と経済系の部署が組んでタイミングをうまく合わせてリノベーションまちづくりのような取り組みをして使い手を育てていることです。

「まち・ひと・しごと」と政府は言っているわけですけれども、まち(都市整備)としごと(産業)をしっかり歩調を合わせてできているところはとても少ない。

よくあるデザインプロセスは、(1)最初に合意形成に失敗てしまい、(2)バラバラに発注して、(3)民間がついてこず、(4)事業が立ち上がり、(5)きれいだけれど使われない空間がたくさん生まれてしまうというものです。

しかし、QURUWAでは、最初に啓発があつて、デザイン調整会議があって、社会実験があって、デザイン調整の仕組みができるという形でうまくいったのではないかと思います。

西村 | 人口減少もコロナ禍も、これまで経験したことがないわけですから、もう理論的にデータや事例を分析しても答えはない。「妄想をする」ということが大事かなと思っています。

僕は「ヒロシの予言」という妄想をFacebookに挙げたのですが、今回もここでその5つを挙げます[図2]。これらがたぶんこのコロナ社会の中ですごく大事になるんだろうなと思っています。

特に公共空間の使い方が重要。これは建築・



左から、藤村龍至氏、西村浩氏、清水義次氏

道路関係なく、屋外空間関係なく、イベント以外も毎日使っていくという、習慣づけが大事だなと思います。

そのためには、やっぱり前例なんてないけどやってみるしかないよね、ということなんです。コロナの社会は誰も経験したことないから、やってみながら、駄目だったらすぐやめる、切り替えるというやり方で、設計等を柔軟に変えて

いける状態にしていくことが大事だと思います。われわれは人口減少やコロナの以前から日常というものの中に生きているから実は幸せに暮らしているんです。

何も考えずに普通に幸せに暮らせるのは日常があるからなんです。

イベントがあるからじゃないんです。ところが、コロナによってその日常が破壊された。

それに対して、この1年かけてもう一回日常を取り戻そうといろんなチャレンジをしながら一生懸命頑張っているわけです。

ところが、コロナだったり、人口減少だったり、あるいは災害だったりというものの中で、乗っているプラットフォームが動いてしまっている

わけです。

だからこそ、元の日常には戻れなくて、新しい日常を発見しなきゃいけないというフェーズにいるわけです。

とにかくチャレンジして、失敗しても良い、失敗したら即座にやめたり軌道修正したりしながらやり続ける。

さらに成功したことは進化させながら適合させる、ということが、たぶんこれからの都市計画だと思うんです。

安全で安心して暮らせるまちにしていくという目標に向かってチャレンジしながら、子育て世代などの感想を聞きつつ、今の時代の暮らしにフィットするまちをもう一回探すということなんじゃないかなと思っています。

整理すると、土地の収益が激減しており、路線価が低下して、固定資産税が激減して、市民サービスは低下する。

だから、人口が流出して空き家が増加するという都市経営の負のスパイラルに地方都市はコロナ以前からずっと陥っているんです。これを断ち切るのが、まちづくりの一一番のポイントです。

そこにリノベーションまちづくりや、今回のウォーカブルを掛け合わせようということでやり続けたのが岡崎市であって、その成果によって籠田公園周辺をはじめ、暮らしの質の向上が見えるようになってきて、幸せな暮らしの風景が戻ってきています。

岡崎市の皆さんに言いたいのは、いよいよ民間のフェーズに移ってきた、ということです。

公共でやることは、皆さん必死になって6年間やってきて、ようやく美しい風景ができたところに、今度は民間が投資をしたり、事業を始めたというフェーズになっています。

清水 | 健康で楽しいQURUWAの日常というのは、今まさに始まりつつあると思います。新たに整備した場所も大事ですが、既存の場所がどんなふうにまちなかへとにじみ出していくのかが、実は大事であるとすごく感じています。あともう1つ、非常に重要な場所は、岡崎のシンボルでもある岡崎城です。岡崎公園は都心部で最大規模の公園です。ここには観光客は訪れます、市民生活ではさほど日常化して

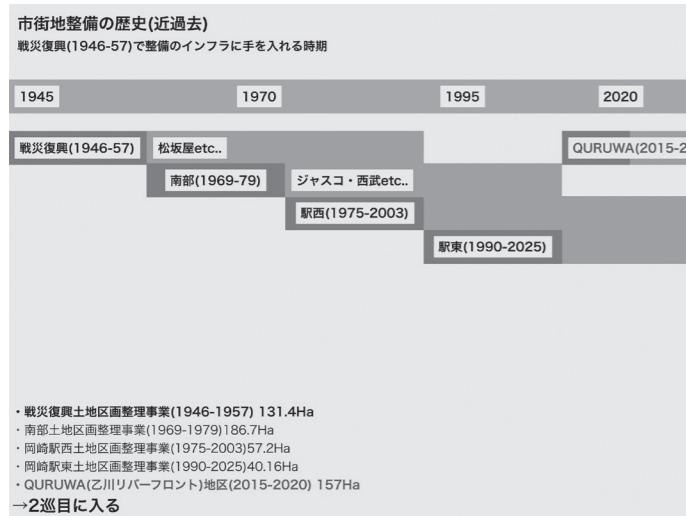


図1

ヒロシの予言＜ウィズコロナ社会の暮らし＞

- 1) 「暮らしのアウトドア化」が進行する
→まだ活用できる屋外空間がたくさんある
- 2) 道路活用の日常化が沿道の経済活動を強く支える
→沿道不動産と屋外空間を一体的に活用しよう
- 3) パーソナルな移動が増加する（新・公共交通の時代）
→ウォーカブルなエリアをつなぐ、新たなモビリティの開発（水運、ウーバー、シェアサイクル、電動キックボードetc）
- 4) 「職住近接」近接のウォーカブルなまちが選ばれる
→いくつもの、コンパクトなウォーカブルエリアを設定し、バリエーション豊かで魅力的な独立経済圏をたくさんつくろう！
- 5) 地方都市回帰、地方主義の時代が訪れる
→ならではの資源を生かして、選ばれる都市、選ばれるエリアをめざそう！

図2

使われていないと感じています。

この岡崎公園がどんな形で、これから市民生活に開かれていくかがとても重要です。このコロナ下、藤棚売店跡地で新たな管理運営者の募集がおこなわれます。小さなコンテンツかもしれません、ここへどんな事業者が入ってくるのか、岡崎城を変えるきっかけになってほしいなと思います。そのような既存の集客の拠点である場所や、あるいは拠点と拠点をつなぐ間に新しいまちのコンテンツがいかに埋め込まれるかが、歩いて楽しいまちを構成する上で大変大事なことだと思います。

歩いて楽しいまちは、公共空間だけが良くなければできあがるわけではありません。

これからは「民間型公共空間」という概念が大事だと思います。岡崎においては、特にそう思います。店舗は、実は民間型公共空間とでも呼ぶべき場所です。民間施設がこれからどれだけ面白い形でコンテンツをつくり出していくかが、自然に歩いて楽しいまちができるかという点で大事になってくるのではないかと思います。

この後、恐らくマンション開発は自然発的に生まれてきます。これからマンション開発で求められるのは、「足元」が良いマンションです。足元から最上部まで居住空間しかないマンションは欲しくない! とそのぐらいのことは言っても良いのではないかでしょうか。地上を歩く1階レベルで、公共空間と民間施設が相互乗り入れしながら、境目なくつながることが、QURUWAでは求められているのではないかと思います。そうやって素晴らしい徒歩3キロの回遊圏を、つくる過程からやるべきかと思います。そして中心部への投資が、市内のQURUWAの外のエリアとつながること、周囲の活性化をどうつくり上げるか、これが極めて重要ではないかと思います。

「なぜ真ん中だけ投資するのか」という批判がよく来ますが、それは周囲とつながれば周囲も生き返らせるきっかけがつくれるからです。特にこれから注目すべきは、額田の森ではないかと思います。あれだけ広い森があるのに、今、林業は廃れています。これからは、木材が建築の主構造体になる時代で、中部ヨーロッパでは明らかにその時代が来ています。省エネのエコハウス等の建築物の普及とともに、これを額田の森とQURUWAを中心とする岡崎の市街地をどうつなぐかということが、からの都市政策の中で極めて重要です。

良いエネルギー政策は、健康なヒートショック

のない暮らしができる生活を約束してくれます。現状、岡崎の建物は、断熱性能があまりにも貧弱です。これは不健康を生み、劣悪な居住環境をつくり出していると思います。このあたりの改善をQURUWAでの幸せな生活をイメージしながら、これをQURUWAから普及させていくことが大事ではないかと思います。

総括

西村 | 今後すごく大事だなと思ったのは、さつき紹介された今のまちの状況に合った自治会(7町連合)ですよね。

自治会に世代を問わずたくさん的人が集まるようになってきたっていうことは、素晴らしいことだと思うんです。

やっぱり大事なのは、自治の再生です。自分たちで公園も活用して運営していくし、まちのことも自分たちで考えるっていう人が数多く出てきて自治が再生される。

今まで行政頼みで、もう行政が何かしてくれないと何もできませんというところが増えてしまっていましたが、それは社会状況と、たぶん行政も手厚いおもてなしをしてきたので甘やかしてきたところもあると思います。

本来は自治体ですから「自治」ですよね。それがこの岡崎市の中でたくさんの人が集まるようになってきて、若い人たちも参加する自治が芽生えてきたっていうことが、これからすごく生きてくると思うし、それを今後、もっともっと充実させていくことがすごく大事なんじゃないかなと思いました。

清水 | 都市空間の再整備がおこなわれて、ちょっと衰退していたまちの中心部に、こんなにたくさんの人が戻ってくるようになりました。小さい子どもを連れたベビーカーのお母さんたちが一番象徴的だと思います。安心・安全な、歩いて楽しく、くつろげる空間はやっぱり大事なのだなということが率直な感想です。そこで歩くことによって人がまた健康になっていったら、高齢者がますます元気になり、医療・介護費の負担も本当に減るのではないかと思います。そういった健康や福祉というレイヤーに、この整備した公共空間がどんなふうに使われていくかは非常に大事な局面だと感じました。今現在は、岡崎は製造業が一番主力の産業ですが、これも時代が変わると、主力産業でなくなる可能性すらあるというのが現実ではないかと思います。からの産業はQURUWAという新しい暮らし方や新しい人間の幸せを

求める一次活動によるものではないかと思います。コミュニティが新しい形で再生されいくのは、実は本質的な目標かもしれません。しかしそれが経済的なことも含めて維持できないと、維持不可能になるのではないかと危惧しています。

QURUWAで新たな産業の基が市内全域ともつながりながら、国の省庁で例えると、国交省テーマ×厚労省テーマ×経産省テーマ、この3つが同時にうまく組み合わされて効果を上げていくようなことが一番求められる姿ではないかと思います。現実にこれをどうやって組み立て、どう実現していくのかがQURUWAのテーマになってきたと感じました。

藤村 | 今日は「健康」がキーワードになっています。

実際に、乙川付近のオープンスペースを、5、6年前、こちらに宿泊して朝ジョギングしてもあまり違う人はいなかったんですけども、今本当に歩く人もジョギングする人も多くなってきて、パブリックスペースの使い方は変わってきていると感じます。

医療や福祉のなかでもまちづくりへの関心が高まっている中で、高齢者の外出機会の創出をどうするか、孤立化をどう防ぐかといった話がなされるようになりました。そのことは今のQURUWA戦略地区のなかで見えてきたもう1つの課題であり、可能性かなと思いました。

QURUWAプロジェクト-7 QURUWA ストリートテラス

岡崎市では、新型コロナウイルス感染症の影響への対策として、国土交通省の緊急措置を活用した道路(歩道)空間活用を推進しました。QURUWAエリアの3つの通り等において、過去の道路空間活用社会実験を活かした、テイクアウト販売やテラス営業等のために、歩道上への仮設施設(テーブル・イス等)の設置を可能とすることにより、新しい生活様式の定着に向けた取り組みと経済活動を支援しています。

対象の通り:

- 1 | 康生通り
- 2 | 連尺通り
- 3 | 二七市通り
- 4 | 市民会館通り

*康生通りは3m以上、その他は2m以上の歩行者空間の確保が必要。

主体と運営について:

警察や道路管理者への許可(道路使用許可等)の申請等は都市再生推進法人と市が協力しておこないました。通りごとに以下の都市再生推進法人と連携して実施しました。

[株式会社まちづくり岡崎]

対象:康生通り、市民会館通りの一部

[株式会社三河家守舎]

対象:連尺通り、二七市通り、市民会館通りの一部

道路占用料:

免除(施設付近の清掃等にご協力いただける場合)

使用期間:

許可取得日-2022年3月31日(予定)

*2022年2月現在

アウトドアギアの貸し出し協力:

株式会社スノーピークビジネスソリューションズ
(能見通1丁目)

2020年6月5日に国土交通省より、沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取り扱い通達が届きました。岡崎市は、地元、道路管理者、警察と調整をおこない7月3日からの道路占用許可、道路使用許可を取得。実施にあたり、スノーピークビジネスソリューションズが主旨に賛同して、スノーピーク製のテーブルと

イスを希望する店舗に無償レンタルしました。制度ポイントとして、道路占用料の減免がありますが、道路維持管理への協力が条件です。岡崎市では、道路を利用する店舗が清掃活動することで、道路管理者と協議をおこない減免。個店からの申請はできないため、都市再生推進法人である、「株式会社まちづくり岡崎」「株式会社三河家守舎」の2団体により、参加店舗を取りまとめ申請しました。

申請参加店舗数

康生通り	16店舗
二七市通り	2店舗
連尺通り	12店舗
市民会館通り	2店舗

取り組みのポイント

- ① 新型コロナウイルス感染症対策の暫定的な営業であること
- ② 「3密の回避」「新しい生活様式の定着」に対応すること
- ③ テイクアウト、テラス営業等のための仮設施設の設置であること
- ④ 営業時間以外は設置物を撤去すること
- ⑤ 施設付近の清掃等に協力すること
- ⑥ 歩行者・自転車等の安全に配慮すること
- ⑦ トラブルが発生した場合、各店舗で責任をもって解決に努めること



マルショウ



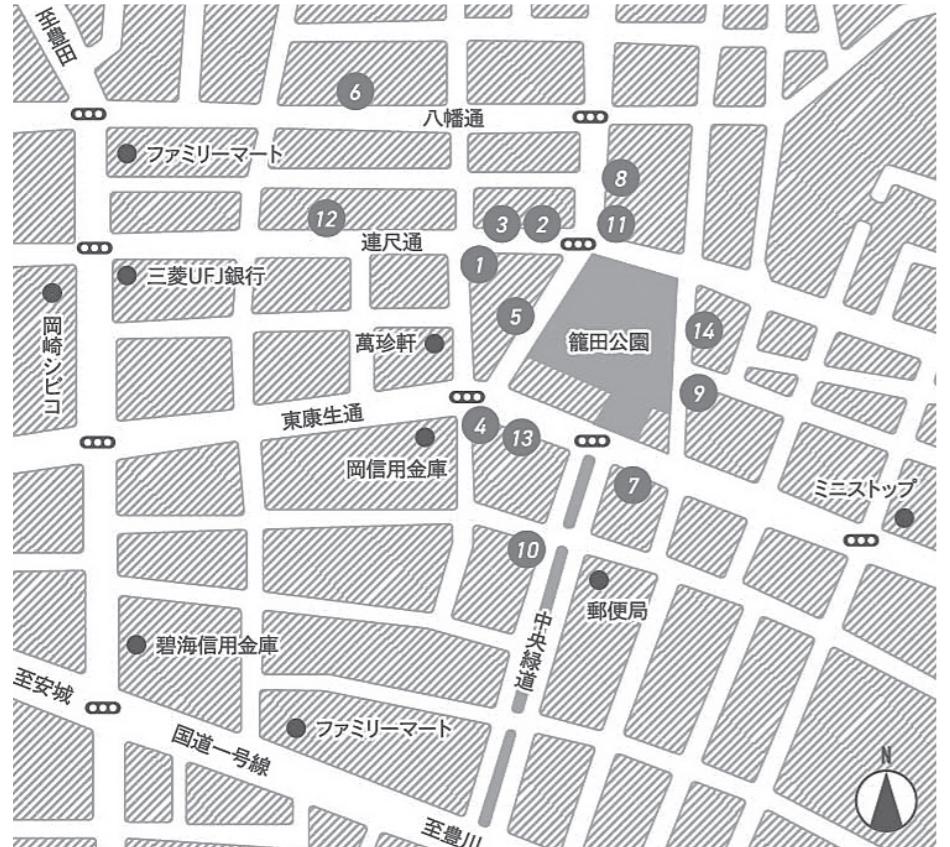
マイクロホテルアングル

関連プロジェクト リノベーション まちづくり

2015年度からスタートした、岡崎市の「リノベーションまちづくり」。清水義次氏が検討委員会委員長を務める「岡崎家守構想」がその土台になつており、まず民間主体でリノベーションのプロジェクトを動かし、それを行政がサポートしていくまちづくりを5年かけて進めていく、というものの、2020年度にはこれまでの5年間をまとめた「QURUWA新風習入門～リノベーションまちづくりの化学変化～」を刊行しました。

「家守」とは、江戸時代に家主や地主に代わつて家や土地、店子などの管理をしていた民間人のことを言うそうです。その呼び名を現代に蘇らせ、空き店舗や空きビルを行政や地域の人たちと連携して活用していく働きをする人を「現代版家守」、その仕事を担う会社を「家守会社」と呼んでいます。

対象地区は、岡崎中心市街地・康生地区から



東岡崎駅までの乙川を囲むエリア。かつてこのエリアは、岡崎市民にとって働き、遊び、学ぶ憧れの繁華街でしたが、現在では空き家や空きビルが多く存在しています。そんな場所に、大きなりノベーション(公共空間整備と活用)と小さなりノベーション(民間遊休不動産活用)という2つのリノベーションによって新たな物語を添え、このまちならではの豊かな暮らしを創り出そうという計画です。リーディングプロジェクトとして、籠田、六供・花崗エリアからスタートしました。

主要な取り組みとしては、2016年2月12日から14日に「第1回 岡崎リノベーションスクール@岡崎」がおこなわれ、同年10月21日から23日には第2回、2017年12月1日から3日には第3回が開催されました。まちなかの空き物件を舞台に、3日間にわたって参加者がリノベーション企画を提案し、実現を目指します。2018年11月16日から18日の3日間にかけては市民のみならず市役所職員も協力しあう「官民連携まちづくり塾@岡崎」が開催。

2016年には「wagamama」チームが、二七市通り沿いにママが自由に集まれる、地元野菜を使った惣菜や菓子を販売する



「wagamama house」を開店しました。他にも、旧東邦ガスビル跡地のリノベーションを進めている老舗煎餅屋兼喫茶店の「一隆堂」が、7月29日に旧東邦ガスビル跡地「一隆堂ビル」をオープン。1階には煎餅店と喫茶室、2階は読書室とインテリアショップ、3階は書道塾などをおこなうワークスペースになっています。

- ① ICHIRYUDO BUILDING | 複合ビル
- ② グラスパークビル | 複合ビル
- ③ みんなのおうち連尺 | 託児所&ワークスペース
- ④ Eins & Zwei | ライフスタイルショップ
- ⑤ Ego ★ Rock | 音楽居酒屋
- ⑥ wagamama house | 惣菜屋
teraco8. | 学習塾
- ⑦ MATOYA | セレクトショップ
- ⑧ エキュメ | 小料理屋
- ⑨ coletocloe | 花屋
- ⑩ 野菜日和 | カフェ
- ⑪ NEWSTAND WOW | ピザ屋&ジューススタンド
- ⑫ TAC-MATE(タックメイト) | コンビニエンスストア
- ⑬ マイクロホテル「ANGLE」 | ホテル
- ⑭ joy and trust | 英会話教室

会議

2020年度 乙川リバーフロント地区まちづくり デザイン会議

デザイン会議とは、QURUWAプロジェクトへの提案・助言・評価とともに、公民連携と都市デザインのクオリティコントロールをおこなうため、まちづくり専門家と主要まちづくり4部局等から構成された戦略会議体のことです。

●メンバーアドバイザー

【乙川リバーフロント地区まちづくり】

【デザインアドバイザー】

清水義次 | 株式会社アフタヌーンサエティ代表取締役
藤村龍至 | 東京藝術大学准教授

西村浩 | 株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役
泉英明 | 有限会社ハートビートプラン代表取締役

伊藤孝紀 | 名古屋工業大学大学院准教授
長谷川浩己 | 有限会社オンサイト計画設計事務所
【民間事業者】
【岡崎市職員】

●道路空間活用社会実験について

康生通り……軒先の積極的な活用と情報発信について議論しました。
連尺通り……通りの将来イメージと常設施設の設置検討について議論しました。

●第3回

日時 : 2020年12月25日[金] 13:00-15:00

場所 : 西庁舎 701号室、WEB配信併用

・今後のQURUWA戦略の進め方について
QURUWA戦略推進による、定性的、定的なまちの変化を調査すること、整備した空間の活用について議論しました。

●QURUWAシンポジウムについて

シンポジウムの構成について、客観的なQURUWA戦略の振り返りと民間投資を意識した展開によることが提言されました。

●公園緑地課の推進事業について

藤棚売店跡地の活用、籠田公園のサイン計画、籠田公園及び篠田公園地下駐車場の指定管理公募について議論されました。

●第4回

日時 : 2021年1月12日[火] 14:00-16:00

場所 : 西庁舎 701号室、WEB配信併用

・QURUWAにおけるイベント・出店のデザイン等クオリティコントロールについて
施設管理者によるクオリティコントロール体制構築、評価制度の導入検討について議論しました。

●回遊支援構想(案)について

ウォーカブルエリアとフリンジパーキングの適正配置、シェアサイクルポートの配置、情報発信との連携について議論しました。

●情報発信について

QURUWAのブランディングサイト構築にあたり、他の情報発信媒体との役割分担、連携方法について議論しました。

PROJECT TIMELINE

プロジェクトのタイムライン



BACK NUMBER

Vol.1

キックオフフォーラム
シンポジウム
デザインシャレット
中間提言書
[収録]



Vol.2

キックオフフォーラム
シンポジウム
デザインシャレット
中間提言書
[収録]



Vol.3

おとがわプロジェクトの
全体像
グランドデザインフォーラム
市民インタビュー
[収録]



Vol.4

おとがわプロジェクトの全体像 | リノベーションまちづくり | かわまちづくり | 基本設計ワークショップ | シンポジウム | まちのトレジャーハンティング | フォーラム | パブリックミーティング | 3つの会議 [収録]



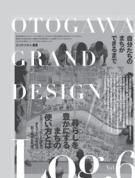
Vol.5

[特集]
QURUWA 戦略
乙川リバーフロント地区的
まちづくり3年目の取り組み
[収録]



Vol.6

[特集]
暮らしを豊かにするまちの使い方とは
乙川リバーフロント地区的
まちづくり4年目の取り組み
[収録]



Vol.7

[特集]
進むQURUWAプロジェクト
乙川リバーフロント地区的
まちづくり5年目の取り組み
[収録]



CREDIT

発行元	岡崎市
発行日	2022年2月
企画・編集	株式会社都市機能計画室
デザイン	刈谷悠三十角田奈央 / neucitora

問い合わせ先:

岡崎市都市施設課 QURUWA戦略係

tel: 0564-23-7421

mail: quruwa@city.okazaki.lg.jp

web: <https://quruwa.jp>